

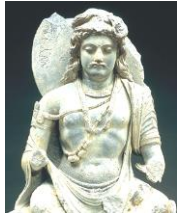
第22回 古代インドの王朝と仏教②

1 仏教の発展

- ・1世紀ころ、仏教は出家した人が中心となって厳しい戒律を守り個人の救済を目指した（ ）と、慈悲によりあらゆる人々の救済を目指した（ ）とに分かれた。

- ・上座部仏教は多数の部派仏教に分裂しており、（ ）の蔑称で呼ばれる。
→セイロン島を経て、東南アジアの国々に伝わっていった（南伝仏教）。

- ・大乘とは大衆を救う「大きな乗りもの」の意味であり、尊い仏である如来や、人々を救済するため修行に励む存在である（ ）への信仰が行われた。
→2世紀ころ（ ）によって教えが体系化された。
→中国を経て、朝鮮半島や日本に伝わっていった（北伝仏教）。



ガンダーラ菩薩像

2 グプタ朝とインド古典文化の黄金時代

☆（ ）（320年ころ～550年ころ）

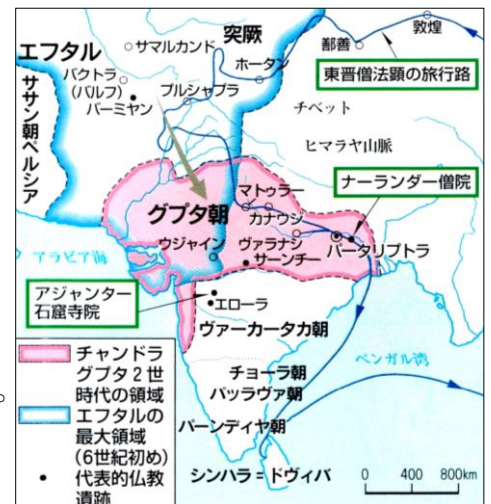
都…（ ） ※ガンジス川流域

◆チャンドラグプタ1世（在位320年ころ～335年ころ）

- ・ガンジス川中流域を支配し、中央の直轄領と周辺の属領からなる分権的な統治を行った。

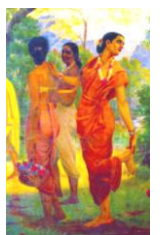
◆（ ）（在位376年ころ～414年ころ）

- ・グプタ朝の最盛期の王で文化を保護したことでも知られる。
- ・中国の（ ）の僧（ ）がインドを訪れた。
→旅行記である『 』を書いた。
- ・6世紀になると、（ ）の侵入で衰退した。



<インド古典文化の黄金時代>

- ・古代インドの言葉（ ）で書かれた文学が栄えた。
『 』…二大叙事詩のひとつ。英雄クリシュナを中心にバーラタ族の王位をめぐる争いの物語。
『 』…二大叙事詩のひとつ。コーサラ国のラーマ王子が、魔王にさらわれた妻を助け出す物語。
『 』…宮廷詩人（ ）作の戯曲で、サンスクリット文学の最高傑作といわれる。



シャクンタラー
シャクンタラーとは、作品のヒロインの名前である。

- ・またバラモン教は、民間信仰などと融合して（ ）となった。
※2世紀までに成立した『 』によって、バラモンの優位が定められた。

- ・西インドの（ ）やエローラ石窟寺院には、ガンダーラ美術の影響を脱した純インド的な（ ）により美しい壁画が描かれた。
- ・またマトゥラーは、純インド風仏像彫刻で知られる都市である。
- ・5世紀ころ東インドでは、グプタ朝によって仏教を中心に哲学、医学、天文学、数学などを学ぶ（ ）が建設された。
- ・数学では（ ）の概念や十進法が生まれ、後にイスラーム世界へ伝わった。



アジャンターの壁画

アジャンター石窟寺院は、ヴァーカータカ朝の君主が寄進したものであるが、美術的には典型的なグプタ様式である。



エローラ

エローラ石窟寺院は、仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教の寺院から構成されている。世界遺産に指定されている。



ナーランダー僧院の跡

ナーランダー僧院に入るには入学試験があり、入るのも大変だったらしい。図書館の蔵書は500万冊以上あった。

3 インドの分裂とヒンドゥー教

☆（ ）（606年～647年ころ）

都…カナウジ（曲女城）

◆（ ）（戒日王）（在位606～647年）

- ・7世紀、中国の（ ）の僧（ ）が来て、ナーランダー僧院で学んだ。→帰国後に『 』という旅の記録を書いた。

- ・ヴァルダナ朝の崩壊後、（ ）というクシャトリヤ身分を自称する勢力により抗争が繰り返され、インドは分裂状態となった（ラージプート時代）。→混乱から都市が衰退し、商人などの支援を受けていた仏教は徐々に衰退した。
- ・一方で（ ）や（ ）を信仰する多神教であるヒンドゥー教は、（ ）で仏教を圧倒しインドを代表する宗教となっていくた。



玄奘の像

玄奘は一般に三蔵法師として知られる。これは経蔵・律蔵・論蔵という3つの重要な經典に、精通している人に贈られる呼び名である。



踊るシヴァ神像

シヴァ神は破壊の神であるが、破壊は創造の前段階とされるため、創造の神でもある。この七福神の大黒は、実はシヴァ神が日本に伝わるうちに変化したものである。

4 南インドの王朝

- ・南インドでは、ドラヴィダ系の（ ）が多くの国を建国した。→前3世紀ころから東南部のチョーラ朝や南端のパンディヤ朝が、「海の道」と呼ばれた交易路に成立し、13、14世紀ころまで栄えた。→（ ）は、スリランカやシュリーヴィジャヤへの遠征も行った。
- ・ベンガル地方のパール朝は、一時ナーランダー僧院など仏教文化を復興させた。
- ・セイロン島では、上座部仏教徒の（ ）がシンハラ王国を建国した。